

河内六寺 の輝き

2007年
7月14日～
9月9日

文化財講演会

7月22日(日) 13時～16時

古市 晃氏(花園大学専任講師)
「孝謙・称徳天皇と難波・河内」

大脇 潔氏(近畿大学教授)
「鳥坂寺とその鷗尾について」

7月29日(日) 13時～16時

近藤康司氏(堺市教育委員会)
「民衆の建てた寺」

森 郁夫氏(帝塚山大学教授)
「聖武・孝謙朝と河内六寺」

定員90名(12時30分より受付)

無料・申し込み不要

市民歴史大学

「聖武天皇とその時代」

8月11日(土) 13時30分～15時

栄原永遠男氏(大阪市立大学教授)
「聖武天皇の行幸」

8月18日(土) 13時30分～15時

館野和己氏(奈良女子大学教授)
「聖武天皇と平城京」

定員90名(13時より受付)

無料・申し込み不要

開館時間 9:30～16:30

休館日 月曜日

入館料 無料

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分

近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分

柏原市立歴史資料館

かわちろくじ 河内六寺とは

『続日本紀』の天平勝宝8歳(756)に、「天皇幸智識、山下、大里、三宅、家原、鳥坂等六寺礼仏」という記録があります。この六ヶ寺を河内六寺とよんでいます。この記録は、孝謙天皇が平城宮から難波宮への行幸の途中に、智識寺南行宮に宿泊し、六ヶ所の寺院を参拝されたというものです。

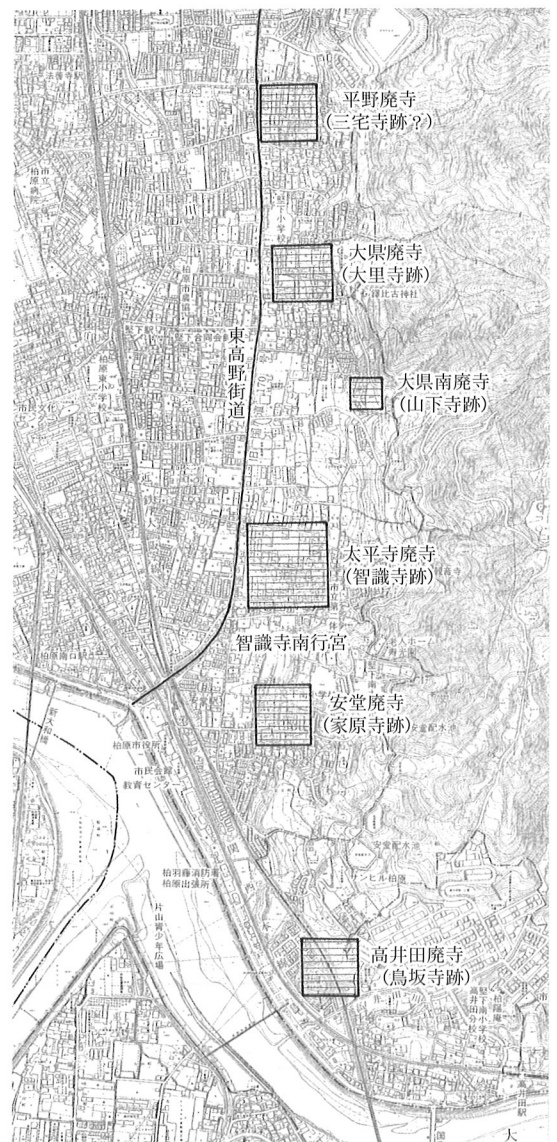
六寺は、おそらく参拝順に書かれたものと考えられます。そして、大里寺は柏原市大里の大里廃寺、鳥坂寺は高井田の高井田廃寺であることが、そこから出土した墨書土器によって確認されています。また、周辺の地名などから、智識寺は太平寺廃寺、山下寺は大里南廃寺、家原寺は安堂廃寺で間違いないでしょう。三宅寺の位置はよくわかりませんが、平野廃寺をこれに当てる説が『柏原市史』などで紹介されています。

智識寺の仏像

天平12年(740)、難波宮行幸の途中に智識寺に立ち寄られた聖武天皇は、そこに安置されていた盧舎那仏を礼拝して感動します。そして、自分もこのような仏像を造ってみたいと思って造られたのが東大寺の大仏なのです。知識(智識)とは、仏教を信仰し、寺や仏像を造るために私財や労働力を提供した人々のことです。智識寺は、そのような知識の人々によって造られた寺です。当然、仏像も知識によって造られたのです。聖武天皇は、智識寺の仏像のすばらしさだけでなく、知識によって造られたということにも感激したようです。孝謙天皇の河内六寺参拝も、東大寺の大仏完成祈願が目的の一つだったと思われます。

智識寺には、東大寺の大仏に次ぐ大きさの大仏があったということです。また、大きな観音立像があったという記録もあります。その大仏が盧舎那仏であったのか、観音立像であったのか、謎につつまれています。

聖武と孝謙天皇によって愛された智識寺、そして河内六寺。その河内六寺が、柏原市の山麓部に麓を並べていた姿を想像してみてください。



河内六寺推定地 (1/20,000)